

SUNSHINE GIRL



海と空と太陽がひととき似合うボートの代名詞「REGAL Boats」。洗練されたスタイリングを持つ「REGAL 35 Sport Coupe」。現行モデルの「REGAL 35」として日本初上陸を果たしたハイパフォーマンスボートを使い、神戸の海で遊ぶ。日本のボート環境にうってつけのニューカマーに試乗した。

text: Atsushi Nomura

photo: Kai Yukawa

special thanks: YAMAHA FUJITA

<http://regalboats.jp>

Kobe Suma Yacht Harbour

<https://www.suma-yh.jp>



REGAL 35 Sport Coupe



アメリカンクーペスタイルを代表するビルダーのひとつ「REGAL Boats」 熟成を重ね完成度を増した「35SC」なら、一年中海に出たくなる

アメリカ・フロリダ州オーランドに本拠地を置く「REGAL Marine Industries (リーガル マリン インダストリーズ)」は現在、19～53フィートのレンジのプレジャーボートを生産している。その最上位クラスである「Sport Coupe」シリーズにラインナップされている「35 Sport Coupe (35 SC)」は、2010年10月にプロトタイプがお披露目され、2011年にニューモデルとして登場した。以来、5年近い時を経たが、毎年少しずつ改良を重ねブラッシュアップしていくのは「REGAL」に限らず、多くのプレジャーボートビルダーに言えることだ。

今回の試乗艇は2015 イヤーモデルの「35SC」である。エンジンはVOLVO PENTA Diesel D3 EVC、220馬力を2基掛け。ドライブはインアウトだが、ポッドドライブと同じようにジョイスティックによるコントロールが可能だ。「REGAL」では35フィートクラスよりも下のモデルについてはIPSを搭載せず、インアウトを採用している。なおエンジンバリエーションはガソリンエンジンを中心に多数展開されているが、ディーゼル仕様は基本的に220馬力のD3の2基掛け。ガソリン仕様ではV8の380馬力までラインナップされているが、今回試乗した感じではそこまでの出力が果たしている

のか?というのが率直な感想だ。

今回は神戸市立須磨ヨットハーバーをベースに、神戸港周辺の海域でシートライアルを行なった。以前のモデルに試乗した時にも感じたが、インアウト艇ならではの走行性能、運動性能の良さは特徴的だ。高速での取り回しやすさは、インアウトらしいフィーリング。旋回時の傾きはきつくないため、右舷側のドライバーズシートからも左舷側の視界は確保できる。もっとも電動ルーフになっているハードトップを開放すればオープンボートと変わらない視野を確保できる。

ファーストインプレッションは、非常に良く走るエクスペスクルーザーだなという感想。この手のボートに求められるハイパフォーマンスを充分満たしている。また安定感も高く、今回はかな

りの人数のゲストが乗っていたが、操船時とても安心感があった。本船の曳き波に当たった時にもいやなビビリが無く、艇体にはかなりの剛性感が感じられた。見かけの洗練されたソフトな印象とは異なり、非常に骨太なボートである。加えて、エンジン音も非常に静か。高速走行時のコックピットでも普通に会話ができ、キャビン内においても同様だった。また、電動で開閉可能なハードトップは、オープンで走行しても強い風はまったく入ってこない。このあたり、ウインドシールドが良く考えて造られていると感心した。

「35SC」のデッキは、パウデッキ、コックピット、後部デッキ、スイミングプラットフォームというレイアウト。「REGAL」の他のスポーツクーペシリーズとはほぼ同じである。後部デッキには電動サンベッドが設けられており、前に移動させればスイミングプラットフォーム



ムをより広々と使い、後ろに移動させればコックピットをさらに広く使える。シートライアル後はコックピットを拡げてテーブルをセットし、パーティタイムとなったが、実際にこういう使い方が非常にしやすいボートだ。またマリナーステイの際などは、後部デッキ全体をオーニングで覆い、コックピットと一体でエアコンを効かせることも可能。全天候型エクスプレスクルージャーというの面白い。

コックピット前部中央のドアからサロンへ。前部のフォワードステートルームはソファの奥にあり、間仕切りはない。後部にはミッドステートルーム。2ベッドだが、中央にクッションを配置すれば大型ベッドになる。どちらもステートルームというよりは大型バースという感じだが、35フィートとしてはスペースも居住性も充分だ。

このクラスの輸入艇エクスプレスクルージャーは、インアウトドラ

イブが主流ということもあってディーゼル仕様は少ない。しかし日本のマリナー事情を考えると、35フィートというのは初心者からベテランまで多くのユーザーが魅力を感じるサイズだ。またフライブリッジタイプのサロンスクルージャーと異なり、積極的に走らせて面白いのもエクスプレスクルージャーの魅力である。さらに、狭い日本のマリナーでは、ジョイスティックコントロールは手慣れたユーザーでも嬉しいだろう。

クリーンでパワフルなディーゼル2基掛け、ジョイスティックでのイーザーコントロール、そしてユーティリティにあふれたスマートでスタイリッシュな35フィート・エクスプレス。「REGAL 35 Sport Coupe」は日本のボートユーザーにとって、これまでに無い魅力あふれるボートと言える。



開放的な魅力にあふれた「35SC」。恋人や家族を誘ってピクニッククルーズやディクルーズに使いたい。電動ハードトップはかなり使い勝手が良く、走行時の風の巻き込みも少ない。ヘアスタイルを気にする女性にも嬉しいデザイン。



オーソドックスなエクスプレスクルージャーのデッキレイアウト。豊富なデッキアレンジは、さすが「REGAL」ボートならではの。後部の電動サンベットのアレンジにより、シーンに合わせてコックピットをより多彩に使える。



SPECIFICATIONS REGAL 35 Sport Coupe

- 全長 11.23 m
- 全幅 3.45 m
- 喫水 0.5 m
- 重量 5.85 ton
- 燃料タンク 598 L
- 清水タンク 189 L
- エンジン 2×VOLVO PENTA D3 EVC
- 最高出力 2×220 HP
- 最大搭載馬力 2×380 HP
- 問い合わせ先 ヤマハ藤田
- TEL: 079-322-8800
- <http://regalboats.jp>



REGAL 28 Express



高さを抑えた小粋なスタイリング 走りの楽しさは天下一品!

「REGAL Boats」のラインナップは、「Bowrider」「Cuddy」「Deck Boat」「Express Cruiser」「Sport Coupe」の5カテゴリー。この「28 Express」は、4モデルある「Express Cruiser」シリーズの一艇となる。モデルデビューは2012年。従来から「REGAL」のこのクラスのキャビンクルーザーにはフロントウインドウ付きのモデルがあったが、見た目にはいささかトップヘビーな印象だった（それでもさらに前のモデルに比べれば高さは圧縮されていたが）。そのややトップヘビーな印象から、高さを圧縮してリメイクされた「28EX」は、前傾したレーダーアーチのデザインと相まってかなり洗練されたスタイリングとなった。

トランサムデッドライズ18度のOceanTrac Hull（オーシャント



ラックハル)は、前モデルと同様のハルだ。ほとんどハンプを感じさせずにプレーニングへと移行する加速性能、柔らかな波当たり、スムーズな旋回など、従来モデルと同じく素晴らしい走行性能を発揮してくれる。デッキアレンジの細かさは「35SC」と同様で、クルージングやピクニック、マリーナステイなどの遊びに最適。見た目以上に安定した走りをする「28EX」は、「REGAL」の最も得意とするランナバウトの良さを、そのままキャビンクルーザーに融合させたオリジナリティあふれるモデルだ。 **P.B.**



クルージングやピクニックなどの遊びに最適な「28EX」。その豪快な走行性能は、「REGAL」が最も得意とするランナバウトの良さを受け継ぐものだ。

SPECIFICATIONS . . REGAL 28 Express

全長 8.78 m
全幅 2.6 m
喫水 0.56 m
重量 3.44 ton
燃料タンク 276 L
清水タンク 75 L
エンジン MERCURY MerCruiser
350 Magnum MPI Bravo 3
最高出力 350 HP
最大搭載馬力 380 HP
問い合わせ先 ヤマハ藤田
TEL: 079-322-8800
<http://regalboats.jp>

